

## 12月定例教育委員会会議録

- 1 開催日 令和7年12月11日（木）
- 2 開催場所 加古川市役所 新館9階191会議室
- 3 出席した委員 小南教育長、溝口委員、小林委員、  
土屋委員（14：40から参加）、中山委員
- 4 出席した職員 鹿間教育総務部長、松尾教育指導部長、  
鷹津教育総務部次長、藤原教育指導部次長、  
尾崎教育指導部学校教育担当参事、  
井上教育指導部部活動地域展開推進担当参事、  
今津教育指導部教育支援推進担当参事、  
真鍋教育指導部ダイバーシティ教育推進担当参事、  
福本教育総務課長、大崎学務課長、岡本社会教育課長、  
岡本学校教育課長、岡本教育支援課長、  
窪田教育総務課副課長、竹内教育総務課管理調整係長
- 5 傍聴者 なし
- 6 議事の要旨
- 開会 午後2時00分
  - 会議録署名委員指名のこと  
溝口委員に決定
  - 11月定例教育委員会の会議録報告承認のこと  
(事務局から会議録朗読報告)  
11月定例教育委員会について、承認
  - 会議公開の可否決定のこと  
全ての議事を公開することに決定

(協議事項)

- 1 令和8年度全国学力・学習状況調査への参加について  
(教育指導部参事から説明)  
原案可決

教 育 長 : 英語の調査で CBT が初めて導入されるため、事前に練習をしておかないといけないのではないかと思う。

- 次期定例教育委員会予定のこと

1月15日（木）午後2時から開催することに決定

- 教育長諸報告

(1) 令和8年第1回加古川市議会（定例会）日程（案）について  
令和8年第1回加古川市議会（定例会）日程案を説明した。

(2) 人権作文について

12月7日（日）に人権作文コンクールの表彰式があった。2市2町での最優秀賞3人のうち、2人が加古川市の生徒であり、当日は本人が多くの人の前で作文の朗読を行った。そのうち氷丘中学校の生徒の作品は、県の大会でも最優秀賞を受賞し、現在全国大会での審査を受けているところである。

氷丘中学校の生徒の作品は、多様性を大切にして、様々な方が抱えている悩みについて共感をし、親と一緒に考えるものである。

また、神吉中学校の生徒の作品は、自分の耳が敏感で、様々なことが聞こえてしまう状況の中で、様々な苦しみを母親と一緒に乗り越えていく内容である。

- 教育委員諸報告

[小林委員から]

(1) 兵庫県PTA連絡協議会について

12月4日（木）に兵庫県主催の「人権のつどい」に参加し、ストーカー被害にあったものの、逮捕された相手が自殺したこと、自身が誹謗中傷を受けた高橋美清さんの講演を聴講した。ご本人は、自殺も考える中で出家し、現在は僧侶として活動されている。

高橋さんは、「成人になっても、インターネット上の批判で自殺を考えるまで追いつめられる世の中で、子どもたちのインターネット問題を危惧している。また、仕組みの整備や学校の対応も限界があるため、子どもがインターネットを使うことについて、保護者がしっかりと子どもと向き合う必要がある。」と強く主張されていた。

(2) 別府中学校の警備員配置について

仕事で別府中学校を訪問した際、校長から警備員配置費用の資金面について相談を受けた。保護者から資金を募って何とか警備員を配置できているが、人件費等の値上がりが続く中で、今後が見通せないとのことであった。

学校の安全面については、各学校に任せられているのか。

教 育 長 : ご質問いただいた内容については、12月議会の一般質問でも質問があった内容である。

事 務 局 : 文部科学省としては、防犯カメラと電子錠、緊急通報装置をハード面として確実に整備することとしており、加古川市は早くから対応しているところである。

一方、ハード面の対応については限界があることから、学校の安全確保については、ハード面とソフト面を上手に融合させて進めていくことが大切となる。全国では今年度も学校への侵入事案が発生している中で、ソフト面として、防犯訓練の定例化や電気錠の操作方法の再確認等、学校の先生方に協力していただきながら、安全面の向上につなげていきたいと考えている。

教 育 長 : 別府地域は過去の経緯から、子どもの安全について非常に意識が高く、PTAの判断で警備員を配置している。警備員を配置している学校は、市内で10校程度であり、すべてPTA等が費用を負担している。

警備費用を教育委員会が負担することについては、要望が出ているものの、教育委員会としてはまずはハード面の整備を進めており、それ以上の負担は難しい状況である。

## ○ 教育指導部長諸報告

(1) 「令和8年加古川市はたちの集い」の開催について  
加古川市はたちの集いの開催について報告した。

(2) 児童クラブの運営に関するアンケート調査結果について  
児童クラブの運営に関するアンケート調査結果について報告した。

委 員 : 質問(9)の委託エリアの回答のうち、どちらでもないが23.7%と高い数字となっている。また、質問(10)の委託エリアの回答のうち、どちらでもないが19.5%と、こちらも高い数字となっている。こどもをどう指導するのか、どう育てるのかという点での思いや技量は、委託エリアでは課題があると推測される。

指導員、補助員合同の研修会を企画し、委託エリアの指導員等の技量を上げていく工夫をしていく必要があるのではないか。

事 務 局 : 指導員等の技量には、どうしても差があるのが現状である。直営エリアについては、職員が巡回して指導を行っているが、委託エリアについては同じように直接指導することができない。その中でも、直営エリアを巡回しながら委託エリアも巡回し、悩みの聞き取りやアドバイスは行っている。また、委託エリアでは、技量の劣る指導員が技量の高い指導員がいるクラブを訪問して、と

もに学ぶ機会を設ける予定と聞いている。

教 育 長 : 令和6年度から一部エリアが委託となっているが、令和5年度までの直営時代から引き続いて指導員を担っている方が多いため、委託となったことで指導員が総入れ替えとなつたわけではない。

直営での運営の場合、退職等で欠員が生じた場合の対応が難しい課題があり、規模の大きい民間企業に委託することで、欠員対応を速やかに行うことができるメリットがある。

来年も調査を行い、令和9年度の方針を決めていく必要があると考えている。

委 員 : お菓子の種類や指導方法等、児童クラブによって運営方法は様々であるため、児童クラブ同士で情報交換や研修があれば良いと感じた。

教 育 長 : アンケートが暑い時期に実施されており、外で遊べないことの不満が高かったことが影響した可能性もある。アンケートの実施時期についても考えていく必要がある。

以上、2件について報告

○ 閉 会 午後2時50分